

令和3年度 定時評議員会 議事要旨

公益財団法人東京都歴史文化財団

- 1 日 時 令和3年6月23日(水)
午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 東京都墨田区横網一丁目6番1号
KFC Hall&Rooms Room111
- 3 評議員現在数 14名
- 4 定 足 数 8名(評議員現在数の過半数)
- 5 出席評議員 12名
評議員 鳥居宏右 (WEB出席)
評議員 関野杜成 (WEB出席)
評議員 鈴木晶雅 (WEB出席)
評議員 小林健二 (WEB出席)
評議員 星見定子
評議員 伊藤淑子
評議員 大笹吉雄
評議員 岡部真一郎
評議員 樺山紘一 (WEB出席)
評議員 澤和樹 (WEB出席)
評議員 鈴木勝治
評議員 田川博己
- 6 出席理事 1名
副理事長 坂巻政一郎
- 7 出席監事 2名
監事 阿部義博
監事 三宅広人
- 8 議 長
評議員 鈴木勝治

9 審議事項

第一号議案 令和2年度事業実績及び決算について

10 議事の経過及び結果

(1) 議長就任

午後2時開会。定款第18条の規定に基づき、鈴木勝治評議員が出席評議員の互選により議長に就任した。

本会が定足数を満たし、評議員会として有効に成立していることの報告があった後、出席評議員全員の委任を受けて、議長が、定款第20条第2項の規定に基づき本会の議事録署名人に伊藤淑子評議員と大笹吉雄評議員を選任し、議事に入った。

(2) 第一号議案 令和2年度事業実績及び決算について

ア 議案説明

配付資料に基づき、事務局長が令和2年度事業実績及び決算について説明を行った後、三宅監事から監査報告が行われ、以下3点の報告があった。

- ・ 事業実績報告書の内容は、真実であると認める。
- ・ 理事の職務執行に関する不正な行為、または、法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。
- ・ 財務諸表については、法人の財産状態並びに正味財産増減の状況を正しく示していると認める。

イ 質疑応答

<評議員>

・ 令和2年度決算についてお聞きしたい。結果として令和2年度当初予算では5億8千1百万円のマイナス予算だったものが、結果3億6千7百万円のマイナスまで圧縮できたことは、努力あってのことだと思う。その中身について、当初過去の黒字を積み立てた特定資産を取り崩すことを前提として、5億8千1百万円を繕うとしていたが、財務諸表に載っている特定資産のどこをどのようにした結果、こうなったのかをお聞きしたい。また、決算で「国の補助金の積極的活用」とあるが、どのような補助金をどのくらい活用できたのか。さらに、前回予算の時に質問をして検討中とお答えいただいた、東京都からの指定管理料について、コロナの影響を鑑みて増額できるか交渉中とのことだったが、その結果はどうだったのか。恐らくそういったものが全て合わさって、3億6千7百万円まで圧縮できたのだと思うので、その内容を分かりやすくご説明いただきたい。最後に、コロナの影響で収容率、観客制限が度々出された影響もあると思うが、ホールの稼働率も下がっている。説明資料1の2枚目(参考資料)で、例えば東京都美術館の公募展の入場者数・観覧者数について、他も落ちているが公募展は特に難しかったようで、一桁違う数字になるほどに落ち込んでいる。それぞれ東京都美術館や様々なホールを使用してきた団体の方々に、令和2年度はどのような苦労があったのか、どのような要望があったのかを財団は把握しているのか、お聞きしたい。

<事務局>

・まず特定資産の内容について、当初の予算では特定資産の内容について、一般正味財産に関わるものとしては、東京文化プログラム&レガシー事業準備積立資産、それから2020賑わい創出事業積立資産等、4つの特定資産について予定しており、約5億4千4百万円を取り崩して事業を実施する計画としていたが、実績は約2億6千4百万円となっている。これは新型コロナウイルスの影響を受けた事業の延期等に伴って、特定資産の充当年度を後年度に変更したことによるものである。次に国の補助金等の内容について、令和2年度は国において数次にわたり補正予算が編成され、その中から経済産業省所管のコンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金をはじめとして、文化庁や厚生労働省を含めて新たに1億2千万円の補助金等を活用して、事業を実施した。次に東京都からの指定管理料の増額の協議結果については、令和2年度は4・5月に全施設が休館となったために、年度早期から東京都と協議を進めてきた。指定管理業務に係る入場料や施設使用料の減収が大きかったこと、施設開館に当たり新型コロナウイルス感染症防止対策を行うための経費が発生していることから、感染症関連経費として約3億4千万円の指定管理料の増額を認めてもらった。最後にホールの稼働率に関する各団体の状況の把握について、昨年度から緊急事態宣言に伴って施設側は休館している時期があった。また、施設利用者側においてもコロナの影響で展覧会や公演の中止、延期等大きな影響を受けたと理解している。そのため財団では、施設利用の取消等に当たり、利用団体に対して施設使用料の返還をはじめ、新たな利用スケジュールを柔軟に調整するなど、丁寧に対応してきた。そうした中で利用団体からは、「出品作品が集まらず次回は施設の使用範囲を縮小したい」と言う声や、公演の主催団体からは「収容制限によって収入減になってしまう」等、「コロナの対策経費がかかるため公演の収支が厳しい」との声を聞いている。個々に意見を聞きながら、これまでも丁寧に利用できるよう対応してきたので、今後もそのように対応を続けていきたい。

<評議員>

・決算については今年もご苦労が続くと思う。今聞いた通り特定資産も活用可能なものをご努力いただければと思う。それぞれの利用団体の方々について私も少し聞いており、美術団体もホール利用団体も観客制限がある中で、チケット収益でやりくりしている団体は本当に苦しく、やっても地獄やらなくても地獄だと言う。今の段階だと、本当はこれから夏・秋に向かって芸術活動が活発になるところだが、収束がどうなるか分からない状態で今年もできず、今から準備も難しいとの声も上がっている。そういう中で出ている声の一つは、観客・収容制限のためどうしても規模を小さくせざるを得ない場合は、使用料を減額することも含めて実施してほしい、というものがある。今年の運用になるが、昨年度の決算の状況で公募展等悩んでいるところもたくさんあると思うので、丁寧に対応していただきたい。そうは言っても芸術文化活動がホールや美術館を使いながら、何とか頑張って実施できることについて、使用料問題について理事会を含め検討していただければと思う。

<事務局>

- ・文化施設として利用してもらうことが第一だと思っているので、貸出のルールに乗っ取って適切に運用していきたい。

<評議員>

- ・非常に難しい状況の中、色々な団体の中でも文化芸術活動が一番大変な思いをしている。もともと、活動して収益が上がるような構造になっていないところもあるので、財団やそれぞれの組織の方々には本当に大変な努力をしたのだと思う。心から感謝申し上げる。その上で、先ほどの星見評議員と被る部分があるが、説明資料1の項目2にある「徹底した経費削減に努めた結果」の記載について、非常に大切なことでありもともと無駄な費用を使う組織ではないが、さらに言うと、この「経費削減」で組織の内部の方々が窮屈な思いをしたり、やるべきことができなかつたりする等、意図しなくてもそのようなことが起きてしまうことがあれば本末転倒だと思う。財団、各組織の一番の目標は、あらゆる人、特に都民の人々を笑顔にして幸せにして、希望の光を与えることだと思う。これはとても大事なことだと思うので、その時に逆に内部の方々や関わりのある方々が苦しむことがないようにお願いしたい。特に閉館中等活動ができなかった時期に、正規だけでなく非常勤の方々に収入がなくなった人も恐らく出たであろうし、助成金の制度は色々活用していると思うが、そういったことも含めて是非ご留意の上、合理的かつ多くの人から信頼を持ってもらえるような活動をしていただきたい。

<事務局>

- ・昨年度の4・5月は完全休館になってしまった期間があり、その間は施設を完全にクローズすることになったため、職員はリモート勤務等によって次年度以降の準備業務に従事してもらった。一方で、館の運営を支える警備業務や案内業務については、休館に伴って停止する部分もあったため、そういった範囲内でポストの見直しはしたが、委託料等の支払いについては発注者側として適正に行い、来るべき開館に備えた対応をした。館を継続して運営することが非常に大切なので、職員にとどまらず関係のスタッフも含めて適切に対応してきた。これからもより丁寧に対応していきたい。

<評議員>

- ・まさに今事務局長がおっしゃったとおり、結局芸術や組織も人が作るものなので、ずっと尽力している常勤・非常勤の方々や関係者も含めて、皆が財団の仕事を支えているのだと改めて思ったし、大切にしてほしいと思う。

<評議員>

- ・東京芸術劇場が開館30周年だった年にも関わらず、コロナで大変大きな影響を受けたと思うが、ここに記載されている以外にも30周年記念として何か計画があったのか。そしてそれが結果どうなったのかをお聞きしたい。

<事務局>

・東京芸術劇場は昨年開館30周年で、10月30日が記念日だったのでその日に「フィガロの結婚〜庭師は見た!〜」と「真夏の夜の夢」の2つを、それぞれ午後と夜の公演を行うように準備をしていた。両方とも観客の制限はあったが上演することができた。特に「フィガロの結婚」は外国からの出演者がいたが日本人に差し替え、「真夏の夜の夢」は演出家が外国人だったため入国にかなり苦勞をしたが何とか来日でき、リモートでの稽古を含めて、最後は現場に来ることができた。その他30周年としてはコンサートの事業も予定していたが、コロナの影響で新曲ができず、12月に差し替えて上演する形になった。その他ちょっとしたパーティー等も予定していたが取りやめにして、記念グッズを関係者に配布した。予定していた事業は縮小しながらも辛うじて実行できたのが、昨年の状況である。皆様に感謝申し上げます。この公演は2つとも先ほど事務局から説明した、経済産業省のJ-LODliveという補助金をもらうことができた。予算的にも迷惑を掛けずに済んだ。

<評議員>

・若手アーティストへの支援や収入について、今新しい技術の形で、ブロックチェーン等の活用でNFT(ノンファンジブル・トークン)という新たなデジタルアート市場が注目されている。こういったものを使って若手芸術家を支える、市場の活用について検討してみてもどうか。

<事務局>

・ブロックチェーン技術を活用したNFT、デジタルアートの資産的な価値をもって売買している技術が広まっていることは承知しているが、投機的な売買も多いと聞いているので、財団として活用することは想定していない。一方でデジタルコンテンツやVR等は、このコロナ禍においてもオンラインでの取組を活用し、今後の活用度も非常に高いと理解している。現在財団ではTOKYOスマート・カルチャー・プロジェクトとして、最先端技術による新しい鑑賞体験の創出と、それに伴う各施設の情報環境整備を一体的に推進しており、誰もがいつでもどこでも芸術文化を楽しめる環境の実現を目指している。インターネット上での芸術文化の発表や、参加体験の機会を増やすことで、若手芸術家の支援に繋がっていけばと考えている。

<評議員>

・始まったばかりのものなので、時間が経てば安定するようなこともある。ここでやらないと判断するよりも、何かしら支援ができる状況になったら検討してほしい。

<評議員>

・コロナ対応に努力していただいている。会場の人数制限以外にも、公演を9時までに終了するような要請が出されているが、どう対応しているのか。公演によっては10時を過ぎるものもあり、9時に終演するために開演を1時間~1時間半前倒しにしても間に合わず、行けない観客が出てしまったりもする。個人的には終演が9時、10時を過ぎ

たら感染の危険性が高まる可能性が理解できない。他にも、東京都の感染対策として、トイレの使用数を制限するガイドラインもあるようだ。文化会館では対応をしていないが、新国立劇場では使用制限をしていた。他に対応している都立施設があれば教えてほしい。個人的には使用数を制限することで待ち時間が増えてしまい、あまり意味がないのではないかと思う。

<事務局>

・トイレの使用数制限については、間隔が狭いトイレは制限しているようである。文化会館、芸術劇場はある程度間隔があるので、使用制限は行っていない。新国立劇場は間隔が狭かったため対策をしたのだと思う。個人的にも他の施設で見た記憶はある。確かにトイレの距離をとるようと東京都から指示は出ている。終演時間の件についても東京都から指示があったが、この場合は緊急事態宣言、もしくはまん延防止等重点措置が発出される前にチケットを発売していた公演は、終演時間が9時を過ぎていても払い戻しや、時間の変更をする必要がないという方針が示されていたため、そのまま公演を実施できた。ただ、9時を大きく超える場合は時間の変更をしていた。また、終演後は飲食店も休業していることもあり、そのまま直帰してもらえた。劇場でも規制退場を行い、出口で直帰を促すお声掛けもした。J-LODliveは感染症対策を必ず行うこと、そしてその対策状況を録画しておくことが求められていたので、徹底して感染予防対策に取り組んだ。

ウ 議決

議長が採択を求めたところ、第一号議案は全会一致をもって原案どおり承認された。

(3) 報告事項

ア 新型コロナウイルス感染症に関する対応状況について

配付資料に基づき、新型コロナウイルス感染症に関する対応状況について、事務局長が報告を行った。

<評議員>

・コロナ対策についてはずっと実施してきたと思うが、令和2年度事業実績報告の冊子に記載されていない。パンデミックによって時代が変わり、危機管理の時に施設運営をどうするかの一つのモデルとなると思う。今後国際交流が進むほどパンデミックのリスクは高くなるに違いない。なぜ記載していないのか。令和3年度版を作成するときは是非別枠を作成し、この2年間コロナにどう対策したか再整理して、次の時代へ続けていけるように記載すべきだと思う。先ほど話のあったアーティスト支援や、子供のためのウェルカム・ユース等の取組についても記載すべき。今この時代に徹底してやる必要がある。こういったことが、新しい時代の施設運営のために必要なのではないか。感染症に対する対応の状況と結果と次のステージまでしっかり書いていただき、事業報告を作成してほしい。

<事務局>

- ・承知した。

<評議員>

- ・他の評議員の方々から意見が出ていたように、対処療法だけでなくこの機会に本質改善、根本解決、特に東京においては新たな時代に向けたクリエイションをしていくことが大切で、ピンチを是非チャンスに変えて対応していただきたい。「アートにエールを！」は予算が付いて受取負担金が上がったとのことなので、やはりこの分野に対する重要性はこのコロナ禍で注目して良いと思う。「アートにエールを！」については、アーティストを育てる、ステージ（場）を育てるというやり取りから、新たに東京らしい文化・芸術を育てる足場、きっかけになればと思う。最終的にどのような成果が見られるのか、あるいはその成果に向けて進んでいるのか対応状況を教えてほしい。

<事務局>

- ・「アートにエールを！東京プロジェクト」については東京都と連携して進めている。参加者からは「苦しい時期に支援してもらい活動を継続することができた」、「専用サイトで自分達の動画がオンライン配信されてとても嬉しかった」といった感謝の声も寄せられており、困難な状況下でのアーティストの思いを強く感じた。また、このプロジェクトでは参加者が生み出した映像作品が、映画祭でグランプリを受賞する等、新たなアーティストの発掘や、一過性に終わらない支援になったと考えている。今年度は「アートにエールを！東京プロジェクト」のレガシーとして、新人や新進芸術団体へのスタートアップ助成を開始した。多くの芸術文化団体や幅広い分野のアーティスト、技術スタッフが参加するフェスティバル等への助成も実施する予定である。現在、助成制度を検討しており、整い次第改めて公表する予定である。

<評議員>

- ・この機会に是非、未来へ繋がるクリエイションの足場を作ってほしい。

<評議員>

- ・コロナ対応で、令和3年もかなり厳しい状況が各文化団体や文化人も続くと思う。各館を使用している利用団体、登録団体へアンケート調査で良いので、今年を含めてこの2年間どのような状態になっているかを聞いて、活かせるものはすぐ活用し、しっかりと対応を打ち出してもらえると良いと思う。意見として伝える。

<評議員>

- ・芸術文化で医療従事者の方々を応援する企画について初めて知った。大変素晴らしいと思う。実際どのくらいのものだったのか。

<事務局>

- ・「青コレ！」については、東京都のコレクションの中から青にちなんだ作品をネット上

に公開し、数は15コンテンツあった。動画を8本製作して公開した。一部のコレクションについては、庭園美術館では展示室の中にも設置し、リアルで見られる場を提供した。ブルーライブについては、文化会館および芸術劇場の中から10公演を対象に、各回10名を招待する企画で、令和3年1月～3月下旬まで開催した。途中コロナの状況で厳しくなり、一部中止になった公演もあった。

<評議員>

・「アートにエールを！」は事業として継続をする予定はあるか。パンデミック収束後も長期的に、あるいは何らかの形で続けていく予定はあるのか。また、TOKYO MX で時々動画を見かけるが、冒頭部分のみを繋いでいるのが厳しい。前置きだけで終わってしまうので、今後も続ける予定があるのなら最初からアーティストへ90秒、あるいは120秒のスポット用の動画を作成してもらったほうが、内容の分かるものになるのではないかと思う。

<事務局>

・先ほども説明をした通り、昨年度から取り組んでいるステージ型の追加募集を、今年度も行い、先般、対象者が決定した。コロナが厳しくなり始めた年末年始に公演の自粛を余儀なくされたステージの関係者を対象としたものになるので、その期間を対象にして募集した。今後の予定は確定していないが、コロナの状況等を見ながら東京都と相談することになると思う。また、TOKYO MX の配信の件は、休みの日に集中してなるべく多くの人に見てもらうことをコンセプトにしている。通常は専用サイトを設けており、作品の全てを視聴できるが、中々アクセスの機会がないので、特定の期間に、我々としては工夫をして配信をした。今後は、いただいたご意見を踏まえて進めていければと思っている。

<評議員>

・今の若い人たちは20分、30分の動画は絶対に見ない。全編とは別に、例えば90秒の見どころだけ抜粋した動画を作成し、それをそのまま流せば良いだけである。一つ一つのコンテンツについて、最初から2種類作ってもらえば作業はとても簡単なもので、もし色々な形で広めたいのであれば、そういった方法で少し変わるのではと思うので、ご検討いただければと思う。

(4) その他（財団の運営全体に対する質問・意見等）

議長から、財団の運営全体に関して質問・意見等を求めた。

<評議員>

・先ほど医療従事者の応援企画について初めて知ったと言ったが、財団が何をやっているかということに関して、もう少し周知徹底をしたらどうか。

<事務局>

・コロナで施設も休館になり、医療従事者の方々も非常にご苦労されているとのことだったので、文化施設として何かできないかというところから出た発想だった。施設へ招待することも、医療従事者の方々への貢献になるのではないかと考え、美術館・博物館は開催している展覧会への招待、ホールについては公演へ招待として取り組んだ。こういう内容でもあるので、控えめに実施した。大々的にはいかないが、しっかりPRはしたい。

以上により、定時評議員会の議事をすべて終了し、午後3時30分に閉会した。